

# ★永代経・御移徙法要★

現在の当院建物での最後の法要となります。午前中は永代経を、午後からは永代経を兼ね、御移徙法要を厳修致します。皆様、お誘い合わせの上、どうぞお越し下さい。尚、食事の用意の都合上、事前に出席の確認をさせていただいております。まことに恐縮ですが、お越しになる際は4月20日までにご連絡をお願い致します。

○日時 4月25日 午前10時半より 永代経(阿弥陀経・正信偈同朋奉讃)  
正午 おとき(食事)  
午後1時半より 御移徙法要



○説教 丹羽 龍微 師

◇婦人同朋会◇ 午後1時半より 7月22日 9月21日(火曜日) 10月28日

◇俳句会◇ 毎月第1日曜日 毎月7日



\*\*\*\*尚、通年の下記行事をしばらく休ませていただきます。\*\*\*\*

◇報恩講◇

報恩講とは、宗祖である親鸞聖人様が真宗を開き、尊い教えを今に伝え残して下さったことへの報恩感謝の法要で、毎年、御聖人の命日前後に厳修されます。

(時節柄当院では一ヶ月繰り上げて厳修いたします)

◇定例法話◇

何故お参りするの、何のために? 聞法って? お経は亡き人のために読むの? 日頃の“?”を住職に尋ね、共に考えてみましょう!! どなたでも自由参加です。



《一口法話》 最近「永代供養をお願いしたら日頃のお勤めはよろしいんですよ」と言うことをよく耳にします。先祖供養をお寺に任せることが本当の供養でしょうか? 永代経をお寺にお願いする事により手厚く末永くお経が上がる。なによりもそれをご縁とし、自身が末永く法に照らされ、生きる意義を見出して行くこと。これこそが亡き人へ出来得る唯一の永代的な供養とは考えられませんか。真宗では亡き人をご縁とする所に自身の生きる道が切り開かれて行く、そんな積極性が求められているのです。



《後記》 先住職が建立した大應寺伽藍の解体には断腸の思いがあります。私自身幼い頃からの思い出がたくさん詰まった建物です。「形あるものはいつかは滅びる」諸行無常である故、先を切り開く為には必要な決断だと確信し自らを納得させ決意いたしました。今回多くの方からの激励の言葉が何よりの励みとなり、この決断に間違いのないものと自信を持たせて戴きました。言葉では言い尽くせない程感謝の気持ちで満たされています。更に多くの御門徒方々から貴重な御懇志ご協力頂きましたことを、この場を借りて心からお礼申し上げます。また、何かと至らない点が多く説明不足により多く誤解を生じさせてしまいました事を深く反省しお詫び申し上げますと共に、何卒今後とも末永いご縁の程心よりお願い申し上げます。 合掌 大應寺二代目住職 岡田 智見